

# 科学技術外交のあり方に関する有識者懇談会：報告書のポイント

## 1 科学技術外交の戦略的方向性

### (1) 科学技術外交の意義と目的

- －パワーバランスの変化、グローバル化に伴う脅威の高まりなど
- －国家安全保障戦略(技術力の重要性及び外交への積極的活用)
- －科学技術外交に関するこれまでの検討と取組

→ 科学技術外交を「日本外交の柱の一つに」

### (2) 科学技術外交の戦略的アプローチ

- －「科学技術のための外交」と「外交のための科学技術」  
「外交のための科学技術」実施に戦略的取組と基盤強化が必要
- －外交戦略の主要目標に沿った科学技術外交  
「平和のための科学技術外交」と「繁栄のための科学技術外交」
- －国境を越える科学技術の特性の活用  
科学技術を活用した対話・信頼関係の構築
- －外交政策判断のベースとしての科学的知見の重要性  
特に、宇宙、北極、深海、サイバー等は、科学技術のフロンティア。  
専門的知見を活用可能。

#### ①積極的平和外交の重要な柱として活用

地域及び国際社会の平和と繁栄の実現に科学技術を積極的に活用する

#### ②経済外交への活用

新興国との協力によりイノベーションを進め、双方の経済成長につなげる(日本企業の海外展開も支援)など

#### ③地球儀俯瞰外交

パートナー諸国等と戦略的にプライオリティをつけつつ連携し、科学技術外交を実効的に推進するなど

#### ④パブリック・ディプロマシー

科学技術先進国としてのブランド・イメージを定着させ、「ソフト・パワー」として科学技術外交を活用する

## 2 科学技術外交に期待される方向性と具体策

### (1) グローバル課題への対応と外交機会の活用

- －「科学技術イノベーションを通じてグローバルな諸課題の解決を主導し、望ましい国際環境の実現をはかる」との外交姿勢を確立。
- －我が国が指導力を発揮すべき課題を特定する仕組みを構築。
- －特定された課題を外交アジェンダとして国際社会に提示し、国際的取組を主導。

### (2) パートナー諸国や新興国等との協力関係強化

- －外交上重要性が高いパートナー諸国との戦略的な共同研究開発を推進。
- －日本企業の海外展開支援とともに、新興国等のイノベーション人材育成や科学技術イノベーションに関する政策立案能力向上を積極的に支援。
- －ODAとの連携・活用を通じた新興国・途上国との協力強化、イノベーションを重視した新興国やODA卒業国向けの戦略的共同プロジェクト立ち上げ。
- －人材育成協力(工学系大学支援など)を強化し、次世代のネットワークを構築。
- －科学技術人材を民間交流を通じた外交活動に活用。

## 3 科学技術外交の効果的推進に向けた基盤強化・人材育成

### (1) 外交政策の立案・実施における科学的知見の活用強化

- －外務大臣科学技術顧問を試行的に設置する。
- －関係府省・機関・学識経験者・産業界との連携強化のためのネットワークを作る。
- －在外公館の科学技術面での機能強化を図る。

### (2) 科学技術外交を支える人材の育成

- －中堅・若手研究者を外交政策の立案に参画させる(外務省内で勤務、科学技術顧問の補佐、国際機関への送りこみ)。

### (3) 対外発信・ネットワークの強化

- －科学技術外交の基本姿勢を国際社会に対して積極的に発信する。
- －知的交流を推進し、科学技術外交ネットワークを強化する。
- －科学者派遣や内外の展示施設・機関(例：ジャパン・ハウス)との連携を図り、我が国の科学技術の対外発信を強化する。

# 1 科学技術外交の戦略的方向性

## (1) 科学技術外交の意義と目的

- －近年の国際情勢（パワーバランスの変化、グローバル化に伴う脅威の多様化や不透明性の増大により、国際協調の推進が必要）
  - －日本の国家安全保障戦略（地球規模課題を念頭に「技術力の強化」の重要性及び外交への積極的活用）
  - －科学技術外交に関するこれまでの検討と取組（内閣府での科学技術外交に関する検討を通じ、これまでにG8科技大臣会合を開催、ODAと連携し途上国との共同研究事業(SATREPS)を立ち上げ、関係府省・機関・在外公館との連携ネットワークを構築）
- 今後の取組：科学技術外交を「日本外交の柱の一つに」

## (2) 科学技術外交の戦略的アプローチ

- －「科学技術のための外交」と「外交のための科学技術」：「外交のための科学技術」実施のため、戦略的取組と実効的な基盤の強化が必要。
- －外交戦略の主要目標に沿った科学技術外交（「平和のための科学技術外交」と「繁栄のための科学技術外交」）
- －国境を越える科学技術の特性の活用（トラック2による信頼構築等、米国での実践）
- －外交政策判断のベースとしての科学的知見の重要性  
（特に、外交政策上重要度を増している宇宙、北極、深海、サイバー等は、科学技術のフロンティアであり、専門的知見を活用可能。）

### 積極的平和外交の重要な柱として活用

- 地域及び国際社会の安定につながるグローバル課題に、我が国の科学技術で貢献。
- 最先端の原子力技術を活用しつつ、世界で唯一の戦争被爆国として、「核兵器のない世界」の実現に向け、いっそう積極的に取り組む。

### 経済外交強化への活用

- 新興国との協力により、イノベーション創出や研究成果の産業化を進め、双方の経済成長につなげる（日本企業の海外展開も支援）。
- 二国間科学技術協定の戦略的活用により二国間関係を強化。
- 在外公館の科学技術イノベーション関係のネットワーク・情報を活用。

### 地球儀俯瞰外交

- 「地球儀俯瞰外交」の視点で、同盟国やパートナー諸国等と戦略的にプライオリティをつけつつ連携し、科学技術外交を実効的に推進。
- アジアの隣国や、台頭する新興国の重要性。
- 先進国、新興国、途上国のそれぞれに応じた協力を進め、厚みのある科学技術外交を展開することが重要。

### パブリック・ディプロマシー

- 戦後70年間にわたる平和国家としての歩みとあわせて、科学技術先進国としてのブランド・イメージを世界に定着させ、「ソフト・パワー」として科学技術外交をこれまで以上に活用する。

## 2 科学技術外交に期待される方向性と具体策 (1) グローバル課題への対応と外交機会の活用

### 方向性

●「科学技術イノベーションを通じてグローバルな諸課題の解決を主導し、望ましい国際環境の実現をはかる」との外交姿勢を確立する(科学技術外交を日本外交の新機軸として明確に位置づけ)。

ー科学技術面での強みを積極的、創造的に活用し、力強い外交を展開。

(グローバル課題をめぐるアジェンダ設定、解決策の提示、国際ルール形成を主導。)

ー科学技術外交を通じて、オープンでリベラル、平和で豊かな世界を築いていく姿勢を明確にする。

(オープンサイエンスの潮流や社会のサイバー化といった趨勢の中、学問・表現の自由、人間の尊厳の尊重といった価値観に立脚した科学技術イノベーションの推進を主導。)

### 具体策

#### (国内連携)

国際社会で将来的に重要になり、我が国が指導力を発揮しやすい「次なる課題」をいち早く特定する仕組みを構築。

(科学技術顧問を中心に、科学技術・学術政策研究所(文科省)、JSTやNEDOのシンクタンク機能等とも連携)

#### (国際的議論を主導)

特定された課題を専門的な視点で検討し、科学的根拠を伴う、時宜を得た外交アジェンダとして国際社会に提示し、サミット、OECD等の国際会議等での議論を主導する。

期待される効果：国際社会における我が国の評価向上，影響力の増進

2016年サミット・TICAD, 2020年オリンピック・パラリンピックといった外交機会を捉えた貢献は効果大

## 2 科学技術外交に期待される方向性と具体策

### (2) 外交上重要性の高いパートナー諸国や新興国等との協力関係強化

#### 方向性

- 外交上重要性の高いパートナー諸国（ODA卒業国を含む）とは、先端科学技術やイノベーションを基軸にした関係構築を戦略的に進める。
- 新興国等との協力関係強化の手段として、科学技術イノベーションを通じた協力を活用することを外交の新機軸とする。
- 政府レベルでの協力関係構築が困難な場合に、科学技術分野の研究者等を介したトラック1.5やトラック2の活用による信頼醸成を図る。

#### 具体策

- － 外交上重要性が高いパートナー諸国との戦略的な共同研究開発を推進。
- － 日本企業の海外展開支援とともに、新興国等のイノベーション人材育成や科学技術イノベーションに関する政策立案能力向上を積極的に支援（ODAの配分見直し、SATREPSの下での研究成果の社会実装促進・イノベーション人材育成面での産業界との連携強化、同窓生のネットワーク化による人脈強化なども含む。）。
- － ODAとの連携・活用を通じた新興国・途上国との協力強化、イノベーションを重視した新興国やODA卒業国向けの戦略的共同プロジェクト立ち上げ。
- － 人材育成協力（工科系大学支援など）を強化し、次世代のネットワークを構築。
- － トラック2への活用も視野に入れ、科学技術人材を科学技術外交のリソース・パーソンとして活用。

我が国のイノベーション推進にも寄与するよう、パートナー諸国との協力を戦略的に推進。

新興国等の長期的・持続的な経済発展を科学技術イノベーション協力を通じて促し、日本企業の海外展開支援につなげるとともに、ODA卒業後も視野に入れた関係を構築

科学技術コミュニティ・レベルでの交流を通じた信頼醸成、情報収集・分析、ネットワーク構築

### 3 科学技術外交の効果的推進に向けた基盤強化・人材育成

#### (1) 外交政策の立案・実施における科学的知見の活用強化

- －外務大臣科学技術顧問を試行的に設置する。
- －関係府省・機関・学識経験者・産業界との連携を強化するための国内・国外のネットワークを作る。  
(科学技術顧問をハブとするネットワークにより、科学技術の専門的知見、内外の最新の動向などの専門的知見を集約して外交政策に反映させ、トップ外交、ハイレベル国際会議の機会、首脳・外相レベルの各種政策スピーチなどに活かす。)
- －在外公館の科学技術面での機能強化を図る。  
(本省・他公館との情報共有・連携を深める。科学技術に関する研修機会を拡充する。)

#### (2) 科学技術外交を支える人材の育成

- －中堅・若手研究者の外交政策立案への参画を可能とする仕組みを構築する。
  - ①フェローシップ制度を通じ、外務省内で所管政策課題の解決に科学技術の知見を要する課や在外公館へ中堅・若手研究者を送り込む。
  - ②外務大臣科学技術顧問に対するサポートとして顧問の補佐を務める。
  - ③国際機関やマルチの国際研究機構に送り込む。

#### (3) 対外発信・ネットワークの強化

- －「科学技術イノベーションを通じてグローバルな諸課題の解決を主導し、望ましい国際環境の実現をはかる」とのメッセージを国際社会に対して積極的に発信する。  
国際的に発信力の高い場で、首相・外相レベルでの政策スピーチを通じ、日本の科学技術外交の理念、目的、具体策を世界に対して発信。
- －知的交流を推進し、科学技術外交ネットワークを強化する。(国際交流基金の交流事業なども活用)
- －科学技術外交推進専門家交流(科学者派遣)の拡充や内外の展示施設・機関(例:ジャパン・ハウス)との連携を図り、我が国の科学技術の対外発信を強化する。(SATREPSをはじめとする日本の科学技術外交の成果も効果的に発信)